投稿 つがる市「クレーター」騒動記＜前編＞

～現地では何が起こっていたのか～

甲田 昌樹（青森県）

1. はじめに

今年３月、青森県つがる市の麦畑に原因不明のクレーター状の窪みが見つかり、隕石落下による衝突孔ではないかと全国的な話題になりました。専門家による調査が期待されましたが、その前に地主の方による重機を使った掘り起しが行われ、SNS などで批判が噴出。天文愛好家が事態の沈静を行う事態になりました。

私はこの件が全国報道された直後から連日現地を訪れ、何が起こったのかおおよそを目撃しました。SNS ではいろいろな憶測から大騒ぎになりましたが、現地では実際に何が起こっていたのかを記したいと思います。

なお、文中ではこの窪みを単に「クレーター」と呼びます。隕石が見つかった訳でも、発生原因が分った訳でもないからです。

2. クレーターの発見

3 月 13 日に麦畑の地主さんのお父さんが畑の様子を見に行った時に不思議な土の盛り上がりを発見しました。地主さんは雪が溶けるのを待って 17 日に畑に行ったところ窪みであることが分ったので、ポンプで雪解け水を排出しながら様子を探りました。

図１　3 月 14 日当時のクレーター[1]

地主さんはこれを警察に知らせ、27 日に検分が行われました。またこの地域は航空自衛隊の戦闘機が飛行することから市を介して自衛隊に問い合わせたところ、航空機からの落下物や爆発物によるものではないことが分りました。

図２　3 月 17 日の雪の掘り出し[1]

地主さん家族や近所の人たちの間では、クレーターを発見した頃から、隕石の落下によるものではないかと考えられていました。地主の息子さんの Twitter では、隕石が見つかれば「億円ぐらいで売れるかも」という話も出ていました。

25 日には地元新聞社が取材に訪れ、28 日にはローカル TV 局（青森放送）が取材して、その日の夕方のニュースで報じました。

図３　3 月 27 日の警察の検分[1]

3. クレーターが全国報道される

28 日のニュースでは隕石の落下による可能性が高いとしていたようです。地主さんも、3月 12 日頃の朝 8 時頃に明るい光とそれに続く「ドーン」という音を聞いた気がすると言い、ニュースでは 3 月 12 日に北海道と十和田市で火球が観測されていたことから隕石の落下の可能性を報じていました。

28 日夕方のニュース報道を受ける形で、その日の夜には多くのネットニュースがこの話題を取り上げ、一気に全国的な話題になりました。私もこの日の夜の Yahoo!ニュースでこの話を知りました。

翌 29 日夕方には青森放送が、つがる市の市長や教育委員会の方が現地を視察したことなどを報じました。また日本テレビ（NTV）は国立天文台の縣先生や、日本火球ネットワークの下田さんに取材したものを報じたそうです。

4. 3 月 30 日（木）の出来事

私はちょうど 30 日が仕事の休みだったので現地を見に行こうと、29 日夕方のニュースの映像から周辺地域を確認し、ネットニュースに書かれた住所地を頼りに、30 日朝に家を出、現地に 10 時頃に到着しました。畑の中に異様にある土の盛り上がりは遠くからもよく見えました。

地主さんに連絡を取ろうと市役所に電話をしたところ、ちょうど今教育委員会の人などと一緒に現地に向かっているとのことでした。少し待つと数台の車の一行が来、地主さん、教育委員会の方、青森県立郷土館の職員と当会会員の小田桐さん、そして TV 局の方が到着しました。

当会会員の小田桐さんは 1984 年の青森隕石と 1997 年の十和田隕石に関わった方です。小田桐さんは今回の件を、29 日の国立天文台の渡部先生からメールで初めて知り、青森隕石を展示している県立郷土館の方と連絡を取って、同伴という形で現地に来たということでした。

図 4　3 月 30 日の現地視察（1）

図 5　3 月 30 日の現地視察（2）

地主さんは教育委員会の方と、クレーターを今後どうするか話をしていました。その内容を地主さんに聞きました。

市としては、隕石が見つかったわけではなく、また前例の無いことなので、クレーターに対しては保存や発掘といった経費のかかることはできない。

地主さんは

じゃあ、掘り返して隕石を探すのも、重機を使って掘ったりするのも全部自分でやらないといけないのか。

と、がっかりした様子で語っていました。

図 6　クレーターの構造

地主さんに、クレーターの発見当初の話を聞きました。それによると、クレーターは東西に 3m、南北に 2m、窪みの深さは 1m。中央に直径 10cm ほどの穴があり、2m の長さの棒を畑面から入れても奥に届かない深さだったといいます。

クレーターを一通り見たり撮影したり、また TV 局の取材を受けた後、地主さんとでクレーターを今後どうすればいいかを話しました。その時は、地主さんが自身で処理する（掘り出す）という暗黙の前提でいました。

私と小田桐さんは地主さんに、普通の石と隕石とを見分ける方法を話し、また隕石がいくらぐらいで売れるかなどを話しました。地主さんは、隕石は珍しいモノだから研究者などに高価で売れると考えていたそうでした。

また地主さんは当初、重機で土を掘り起こして隕石探しをする考えだったとのことなので、「重機はやめてください。絶対見つかりません」と釘を刺しておきました。

クレーターの発掘については「土日だったら、愛好家に声をかければ発掘を手伝う人がいると思う」と話したところ、地主さんも「土日になんとかするかな」と話していたのですが、TV 局の方は「土日だとニュースで使えないなぁ」と話していました。実際、土日にはニュース番組のローカル情報の時間はほとんどありません。

30 日の現地ではおよそこのような話をし、「何か決まったら連絡をください」と名刺を交換して、12 時半に解散しました。

私は帰路の途中で、窪みの、深さ 1m の細い穴のことが気になりました。隕石落下でそのような穴ができるだろうか？　そこで 16 時頃に国立天文台の渡部先生に伝えようと電話したところ不在だったので、縣先生に伝えました。縣先生は、現地に私が行っていたことを知ると、「スペースガードセンターの人に現地に行けないか相談するから、それまで現場を保存して欲しい」と言われました。それを聞いた私は、地主さんは掘るにしても土日だろうと、翌金曜に話をするつもりで帰宅しました。

5. 3 月 31 日（金）の出来事

早朝の出勤前にメールチェックしたところ、地主さんからメールが届いていました。何と、今日の朝 8 時からクレーターを掘り起こす、というのです！　メールの送信は昨日の 16 時頃。ちょうど私が縣先生と電話で話していた頃に、地主さんは掘り起こしを、土日ではなく、金曜にすることに決め、マスコミにもその旨連絡していたのでした。

地主さんから頂いた連絡先は会社であったため、8 時を待って電話すると事務の方が出、地主さんはすでに畑に行っているとのこと。そこで、専門家が現地に行くから、それまで掘り起こしを待ってくれるよう伝言をお願いしました。追って返事の電話が来たのですが、もうマスコミも来ているから、今更中止できないとのこと。また、現地には専門家の方がすでに来ていることも知りました。

国立天文台の縣先生にも、急きょ掘り起こすことになったことを伝えました。その際、金曜に掘ることになった理由として「土日だと TV が放送できないから、かもしれない」と推測を伝えてしまいました。先生からは、何とか掘り起こしを止めて欲しいと言われましたが、もはや何もできませんでした。

私は仕事を昼で切り上げ、急いで現地へ行きました。

現地には青森市の小田桐さんも、郷土館の方から今日掘り起こすとの連絡があり、共に来ていました。

図 7　3 月 31 日の畑の様子（1）

図 8　3 月 31 日の畑の様子(2)

様子を聞くと、掘り起こし前にスペースガードセンターの方が来られ、延期を依頼したものの叶わず、少し時間をもらって地形の測定などをしたとのことでした。

クレーターはその後重機で掘り起こされました。掘り出された土は、水を高圧スプレーでかけて隕石らしき石を探しては、穴に埋め戻されていました。

聞いた話では、地主さんは少しずつ土を掘り出して隕石を探そうと考えていたそうですが、それが重機の操縦者に伝わらず、一気に掘られたため、やむなくそのまま続けることになったとか。

また、どうして急に掘り起こすことにしたのか地主さんに聞くと、「アレを早く無くしたくてさ。」と語りました。地主さんは隕石が発見されることを期待していましたが、盗掘の心配と、土日の見物者により畑が荒らされることを心配しての、金曜の掘り起こしでした。

画像出典

[1] 写真提供：(有)インフィニティ
　他は筆者撮影